

8 どんづる^{ぼう}峯 [天然記念物（追加指定）]

〔所在地〕 香芝市穴虫

〔所有者〕 香芝市

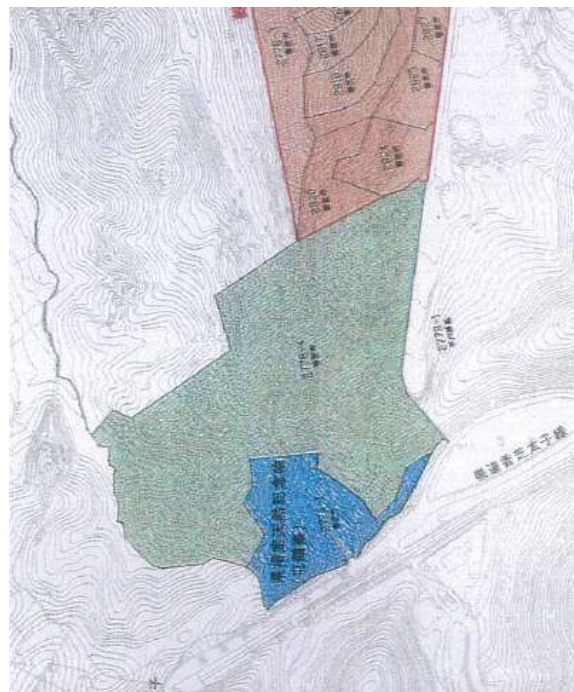
〔指定日〕 昭和 26 年 11 月 1 日

〔概 要〕

どんづる峯は、「屯鶴峯」とも表記され、白い凝灰岩の岩肌が鶴が屯するように見えることから名付けられた。二上火山群の雄峯である二上山から噴出した火山岩が水底に堆積して凝灰岩層となり、さらに隆起と風化・水蝕を経て奇岩・奇勝となったものである。この凝灰岩層は、地質学的には上部ドンズルボー層と称され、主に火山礫凝灰岩、凝灰角礫岩、成層した細粒な凝灰岩の互層からなっている。露頭に現れたこの互層は、小波のような美しい髷となっている。

また、凝灰岩露頭部周囲のシルト質土壌が浅く発達した部分は、アカマツ、コナラ、モチツツジなどから成る貧栄養の矮林に覆われ、特異な別天地を感じさせて、奇勝の名に相応しい。さらにこの凝灰岩は古墳時代の石棺や飛鳥・奈良時代の寺院の基壇に石材として利用されており、それらの産地としても知られている。

どんづる峯の奇岩・奇勝を構成する上部ドンズルボー層の露出は、広域に広がっている。しかしながら、昭和 26 年（1951）に指定されたのは南側の一部であった。したがって今回は、所有者の理解を得ることができた既指定範囲の北側隣接地を追加指定する。これによって、天然記念物としての保護をより一層確実なものとするのが適切である。



※青色：天然記念物指定範囲

緑色：今回追加指定する範囲